コラム

「原水爆禁止2014年世界大会・広島」に参加して

金融労連中央執行委員　阿部　正巳

平成26年8月4日～6日、「核兵器のない平和で公正な世界」をメインテーマに「原水爆禁止2014年世界大会・広島」が広島県立総合体育館にて開催され、金融労連から4名、京都北都信金従組から1名参加しました。

私は、原水爆禁止世界大会への参加と平和の折鶴の取り組みは、平成16年から11回連続参加しています。きっかけは、集まった平和の折鶴は責任を持って現地へ持参すること。広島、長崎へ行って何でも見てやろうという好奇心から出発しています。

8月4日から6日の「原水爆禁止2014年世界大会・広島」は連日豪雨に見舞われましたが、涼しい3日間でした。今大会の特徴は秘密保護法強行採決、集団的自衛権の閣議決定後であり、厳しい状況下での開催でした。

開会総会は海外代表を含め6,500人が参加。8カ月後に迫った核不拡散条約(NPT)再検討会議を、核兵器廃絶を実現する決定的な転機とするために核兵器全面禁止の大波をつくりだそうと決意を語り合いました。

8月5日、早朝、金融労連の全国の仲間から集められた5,700羽の「平和の折り鶴」を広島平和記念公園内「原爆の子の像」に手向けました。分科会3「非核3原則の実行」に参加しました。グアム、フィリピンなど海外代表から米軍基地の現状と核兵器がいかに非人道的兵器であるかの報告がありました。また、京都府京丹後市の米軍基地Xバンドレーダーについて発言があり、「レーダーの電磁波が医療機器を壊す」「京都府民に説明がない」などの報告がありました。

8月6日、広島平和記念式典の平和宣言で松井広島市長は「憲法の崇高な平和主義のもとで69年間戦争をしなかった事実を重く受け止める必要がある」と述べましたが、集団的自衛権には触れませんでした。しかし、弁護士や被爆者らでつくる市民団体には「集団的自衛権の行使容認が戦争の抑止力になるという考え方は、抑止力のために核兵器が必要という主張と同じだ」と厳しい意見が寄せれました。

私の住んでいる京都府舞鶴市ではシベリヤ抑留について「舞鶴引揚記念公園」収蔵資料がユネスコ世界記憶遺産国内候補に決定しました。

原爆もシベリヤ抑留も戦争体験を通して、語り部の方から聞いた話を職場や家庭へ持ち帰り、次世代へ語り継ぐ責務があると感じました。